

№13

子どもへの多様な 体験機会の充実

区民評価委員向け
説明資料

足立区



本日のご説明構成



事業の概要：すべての子どもたちに「生き抜く力」を

対象：0歳から18歳までの全ての子ども（区内全域）



【最終成果】
自己肯定感を向上させ、
生き抜く力を育む

R14最終目標値：
83.5%（現状79.5%）



目標1（貧困をなくそう）：
経済的理由を問わず体験機会を提供



目標4（質の高い教育をみんなに）：
自分の人生を自ら切り開き、
自立を促す



目標10（人や国の不平等をなくそう）：
全ての子どもに多様な体験機会を
提供し、体験格差を広げない

4つの活動指標：子どもの成長を支える多様な体験



ワークワーく in Summer

夏休み期間中の区有施設等利用料無料化や、体験講座の提供により体験格差を解消。



大学連携事業

区内大学の特色を活かし、教授や学生と連携した科学実験や授業体験を提供。



キャリア教育支援

キッザニアやTGG（TOKYO GLOBAL GATEWAY）への入場料助成を通じた職業・グローバル体験。



小・中学校自然教室

小5・小6・中1を対象とした、大自然や文化、歴史に直接触れる宿泊型体験。

活動指標と実績：提供機会の最大化（令和7年度）



ワークワーく in Summer

達成率：104%
実績：146 講座・無料化
施設（目標140）



大学連携事業

達成率：106%
実績：35 プログラム
（目標33）



キャリア教育支援

達成状況：やや順調
（81%・後述の分析にて
対応策を提示）
実績：83 参加校
（目標102）



自然教室

達成率：100%
実績：1,003 プログラム
（目標1005）

直接成果：圧倒的な参加規模と高い満足度

ワークワーく in Summer



72,810 人 (達成率103%)

大学連携事業



11,304 人 (達成率99.6%)

キャリア教育支援



8,580 人 (達成率115%)

想定を超える多くの子どもたちが体験活動に参加。

自然教室でのアンケート結果

満足したと感じた子どもの割合

96%



満足度: 96% (目標90%に対し、107%の達成率)

自然や文化、歴史等に触れることで
高い満足度を得ています。

中間成果：子どもたちの内面にもたらした確かな変化

参加して、
これからも新しい
ことを知ったり、
チャレンジしたい

実績：95.8%（目標90%、達成率106%）

自然教室に参加して、
自信を持つことができた

実績：88%（目標78%に対し、達成率113%の大幅超過）

将来の夢に
につながる
きっかけを得た

実績：81%（目標81%、達成率100%）

プログラムでの成功体験が、確実に子どもたちの「自信」と「挑戦意欲」へと昇華しています。

分析と対策（前編）：ニーズの拡大と多様化への適応



ワークワーく
in Summer

【課題】

周知が広まりニーズが増加傾向。
参加定員枠の不足。

【枠の拡充】

体験格差を解消するという目的を堅持
しつつ、参加できる人数枠を計画的
に拡充させる。



大学連携事業

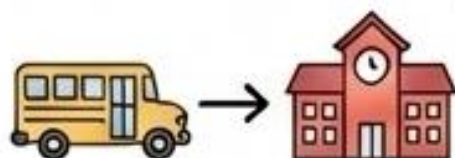
【課題】

大学連携でのプログラム拡充や、
東京藝術大学連携事業の二次募集
などにより利便性向上などの成果
は出ているが、特定の教授や学部
に依存した拡充には限界がある。

【総合的な体験機会へのシフト】

単一的な拡充ではなく、既存事業への
複数プログラム設定や、より幅広い
分野への展開によるプログラムの維
持・拡充を図る。

分析と対策（後編）：安全性と公平性の確保に向けた転換



キャリア
教育支援

【課題】

従来の校外職場体験は、安全面のリスクや受入企業の制約などあり、体験機会の公平性に課題（参加校数83校に留まる）。

【「おしごとらんど」の拡充】

企業が学校に出向く「校内型職業体験」へシフト。すべての生徒に安全かつ公平な職業体験を提供。



小・中学校
自然教室

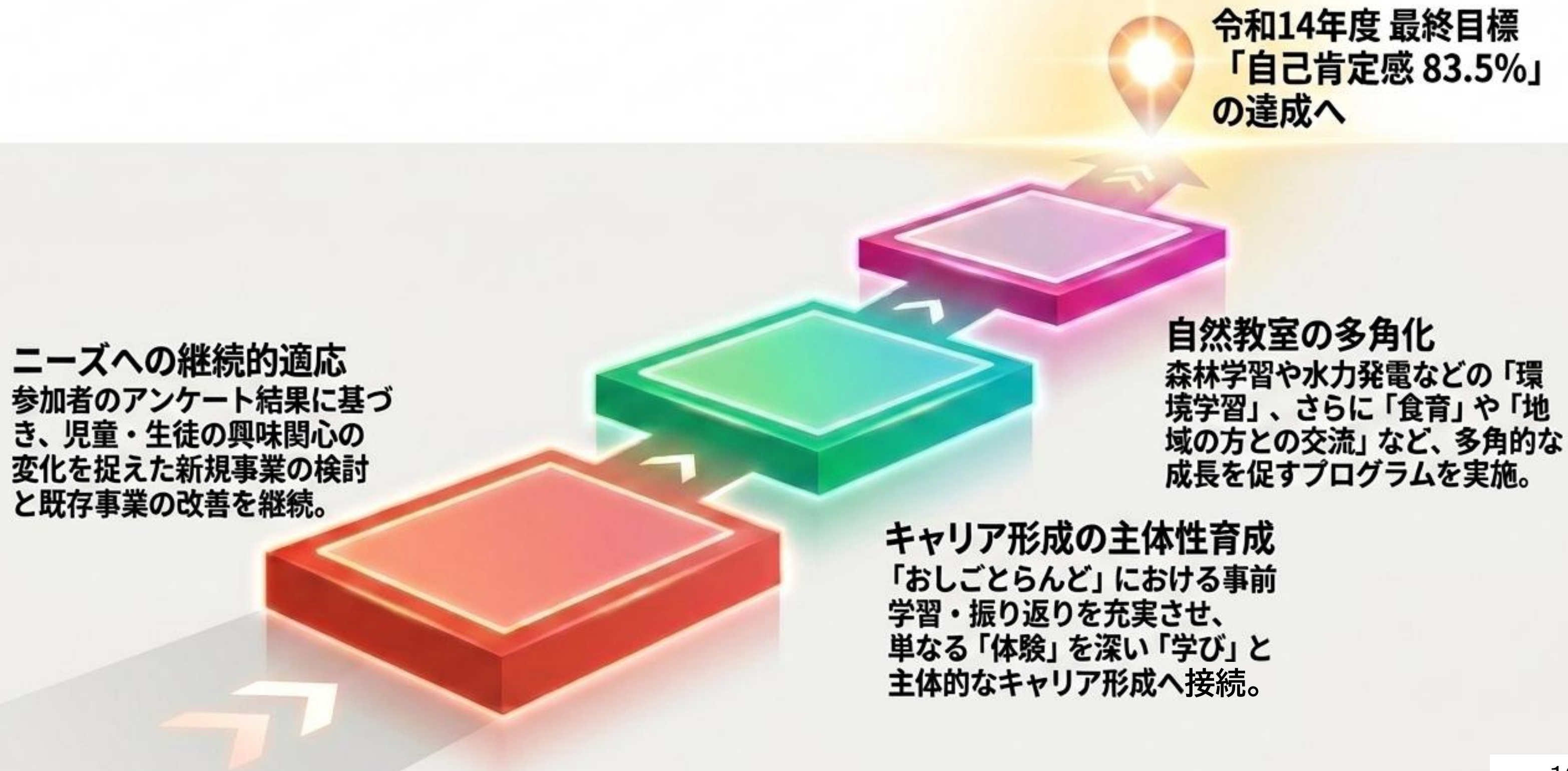
【課題】

鋸南自然の家の閉館に伴う、代替となる質の高い体験プログラムと実施場所の確保。

【国立施設等への戦略的移行】

令和8年度より、赤城・那須甲子・磐梯の国立施設や、千葉県（大房岬）での実施へ移行し、新たな体験プログラムを構築。

今後の方向性：中長期的な体験価値の進化



A group of diverse children, including boys and girls of various ethnicities, are running joyfully across a grassy field. The scene is captured during the golden hour of sunset, with warm sunlight creating a soft glow and long shadows. The children are all smiling and looking towards the camera, conveying a sense of happiness and freedom. The text is overlaid in the center of the image.

子どもたちの自己肯定感と生き抜く力を育むため、
これまで以上に全力で取り組んでまいります。

NO.14
学力向上対策推進事業
(個に応じた学習を実践するための
教員の授業力向上)

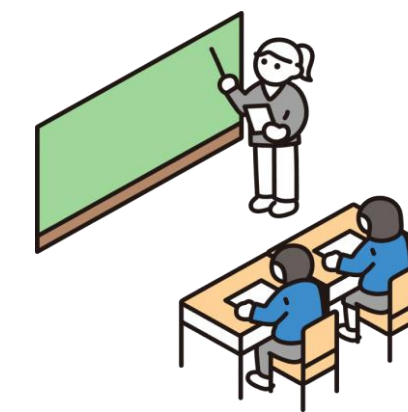
子どもたちに
「できた」「わかった」
の喜びを！

確かな学力の定着



この事業が目指すもの

全ての児童・生徒が、生まれ育った環境に左右されることなく、自ら学び、考え、課題を克服する中で**確かな学力**を身につけ、**人生を切り拓いていく力**を培うことができるよう支援する。



この目的は、次の3つの成果に結びついています

① 確かな学力の定着

全ての児童・生徒が、学校・家庭の場所を問わず学び、基礎学力をしっかりと身につけられる。

② 自立と未来を拓く力

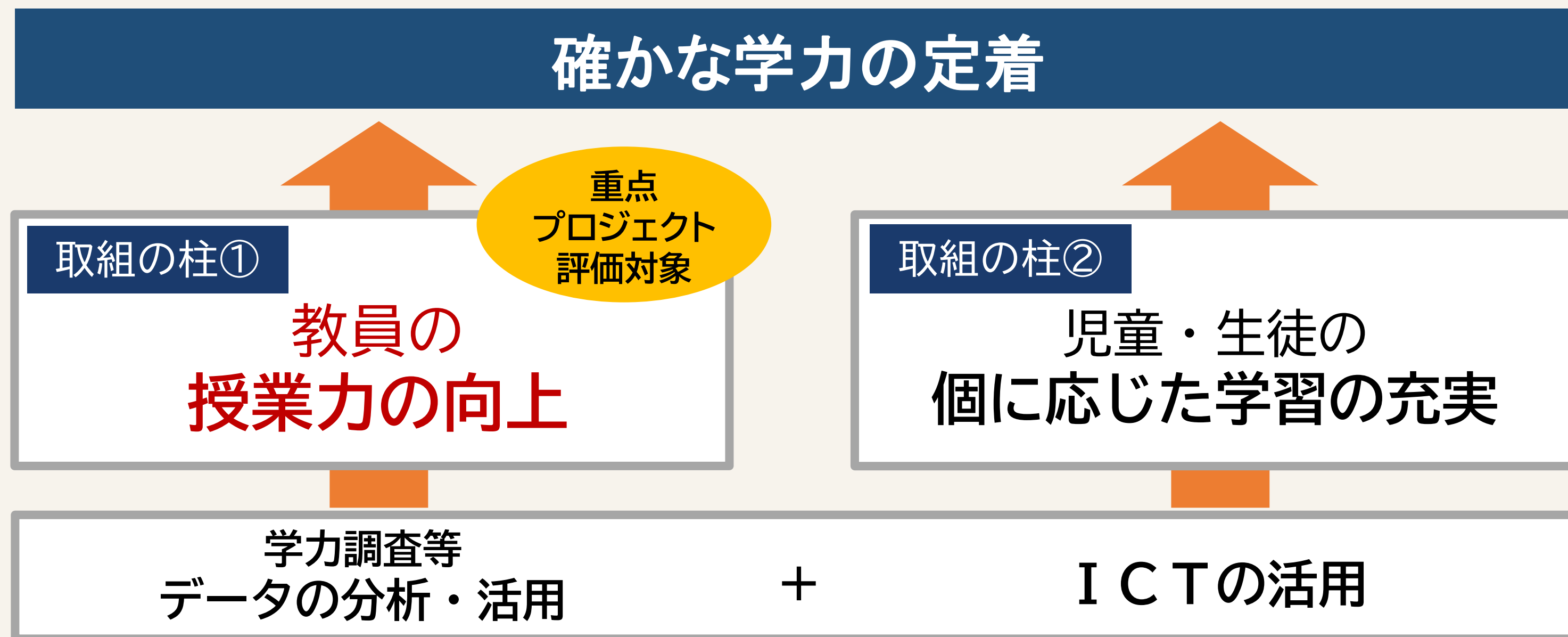
社会的な自立を促し、貧困の連鎖を断ち切る。子どもたちが将来を主体的に選び取れる土台をつくる。

③ 質の高い公教育

公教育を通じて学力を保証し、課題を見つけ、多様な他者と協働して解決する力を育てる。
(SDGs目標1・4に対応)

※「学力」とは、教科の知識・技能だけでなく、思考力・表現力・判断力等、学びに向かう力・人間性等(主体的に学習に取り組む態度)を含めた総合的な力をいいます。

「2本柱」を中心とした施策体系



令和7年度からの見直し

重点プロジェクトにおける本事業の評価対象を、従来の「個に応じた学習の充実」から「教員の授業力向上」へと見直し、活動指標および成果指標を再構成しました。

「教員の授業力向上」の取組みの2つの柱

柱①

学習者(児童・生徒主体)による問題解決を中心とした授業スタイルである
「足立スタンダード」に基づく授業改善の推進

教員主導の知識伝達型の授業からの脱却・転換

柱②

ICTの効果的な活用による
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

タブレット端末やアプリケーションを
効果的に活用することによる学びの充実

児童・生徒が
自分のペースで進められる
友達と考えを共有して
理解を深める
自分から考えて学ぼうとする

最終的に
確かな学力が定着する



「教員の授業力向上」の取組み（柱①）

柱①「足立スタンダード」に基づく授業改善の推進

足立スタンダード
って何？

「誰もがわかる授業の実現」を目指した、「めあてを明確にし、自分で考え、子ども同士で学び合い、学習した内容をまとめて、振り返りを行う、**児童・生徒主体の問題解決を中心とした授業スタイル**

授業の流れ — 見通しをもって学ぶ「誰もがわかる授業」

STEP 1

めあて

本時の目標を明確に示し、児童・生徒が学習の見通しをもつ。

STEP 2

自分で考える

一人ひとりが課題に向き合い、自力解決に取り組む。

STEP 3

学び合う

子ども同士で考えを伝え合い、問題解決を深める。

STEP 4

振り返る

めあてに正対したまとめと振り返りで学びを定着。

期待される効果

学習者(児童・生徒)主体の授業

学び合いを通じて一人ひとりが思考を深める授業の実現することで、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力等を育成し、確かな学力の定着・向上につなげる。

授業の質の平準化

小学校・中学校で共通の指針を持ち、どの学校・教員でも一定水準の授業を実現する。



「教員の授業力向上」の取組み（柱①）

柱① 「足立スタンダード」に基づく授業改善の推進

活動-1

秋田県大仙市への教員派遣による 公開授業

区の教員を、全国でも学力水準の高い
秋田県大仙市に派遣して、
学習・指導方法を直接学びます。
派遣教員は公開授業を行い、
区内教員に学びを還元します。

写真

活動-2

小中連携による研究・研修会

小学校・中学校合同での授業研究や
教員交流などにより、
9年間を見通した授業づくりや
学びの連続性・系統性を意識した
教育活動などを研究・実践しています。



活動-3

活動-5

教科指導専門員による 若手教員等への指導・支援

授業の改善・充実のため、
教員経験豊富で教科指導力に
秀でた「教科指導専門員」が
各学校を巡回し、若手教員を
中心に指導しています。

写真

「教員の授業力向上」の取組み（柱②）

柱② ICTの効果的な活用

活動-4

活動-6

授業でのタブレット端末の効果的な活用

タブレット端末を単に使うこと自体を目的とするのではなく、児童・生徒が自ら学び、友だちと学び合いながら、理解を深めていく授業を実現するための学習基盤として活用しています。あわせて、学習進度や個性に応じた支援を行うことで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「自ら学びを深めるあだちの子」の育成を目指しています。



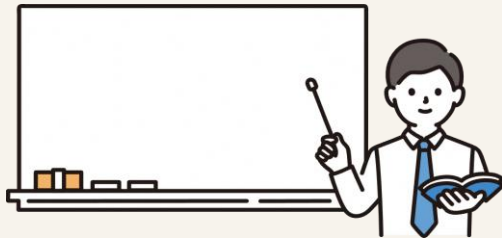
写真

ホワイトボードアプリ(Figjam)でリアルタイムに互いの考えを共有し、自分の考えをさらに深めていく。

実験の様子をタブレット端末で撮影して、実験振り返りや結果の考察に活用する。

写真

活動指標の実績（区が行った活動量）



令和7年度実績で**達成3項目／未達3項目**。中学校とICT活用に課題が残りました。

No.	指標	単位	R7 目標	R7 実績	達成率	達成状況
活動-1	秋田県大仙市への派遣教員による公開授業の実施回数	回	4	5	125%	達成
活動-2	小中連携による研究・研修会の実施回数	回	245	282	115%	達成
活動-3	教科指導専門員から受けた指導回数(教員一人あたり／小学校)	回	10	11	110%	達成
活動-4	タブレット端末を週3回以上使用させている学校の割合(小学校)	%	76.0	59.7	79%	やや順調
活動-5	教科指導専門員から受けた指導回数(教員一人あたり／中学校)	回	20	13.3	67%	やや遅れている
活動-6	タブレット端末を週3回以上使用させている学校の割合(中学校)	%	77.0	51.4	67%	遅れている

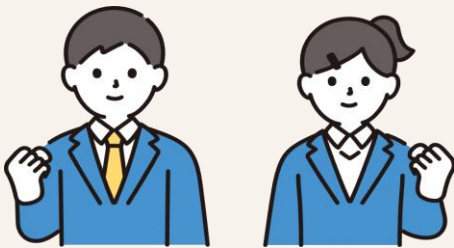
達成できたこと

公開授業・小中連携・専門員（小）の3指標が いずれも目標を上回って達成

課題が残ったこと

中学校での 指導回数（13.3回） と 端末を週3回以上活用 に課題

成果指標の実績（児童・生徒に表れた変化）



③ 直接成果 授業で起きる変化

No.	指標	校種	R7 目標	R7 実績	達成率	達成状況
直接成果-1	「課題解決に向け、自分で考え取り組んでいた」	小学校	77.3	79.7	103%	達成
直接成果-2	「話し合いで自分の考えを深めることができる」	小学校	80.0	83.3	104%	達成
直接成果-3	「自分にあった教え方・教材・学習時間になっていた」	小学校	81.0	82.2	101%	達成
直接成果-4	「課題解決に向け、自分で考え取り組んでいた」	中学校	78.3	78.2	100%	順調
直接成果-5	「話し合いで自分の考えを深めることができる」	中学校	79.2	83.7	106%	達成
直接成果-6	「自分にあった教え方・教材・学習時間になっていた」	中学校	73.8	79.2	107%	達成

④ 中間成果 児童・生徒の意識の変化

No.	指標	校種	R7 目標	R7 実績	達成率	達成状況
中間成果-1	「授業はわかる」	小学校	88.4	88.2	100%	順調
中間成果-2	「授業は楽しい」	小学校	87.1	85.8	99%	順調
中間成果-3	「授業はわかる」	中学校	67.6	65.1	96%	順調
中間成果-4	「授業は楽しい」	中学校	79.1	79.7	101%	達成

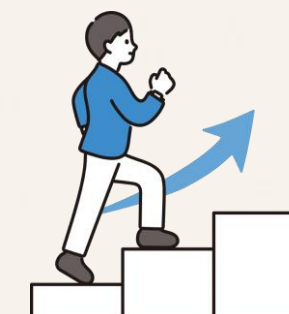
⑤ 最終成果

国の正答率以上の学校の割合（R7実績）

小学校 45.5% 中学校 47.1%

R14最終目標：小 75.0% ／ 中 50.0%

今後の方向性



短期:中学校を重点に、一步ずつ改善

① 学校の好事例を、区全体へ広げる

端末の活用が進んでいない学校を「研究校」、進んでいる学校を「推進校」に指定し、専門家(教育DXアドバイザー)が学校に通って一緒に授業をつくります。

② 中学校への支援を厚くし、目標の見直しも行う

教科指導専門員の人数が実際に減っていることを踏まえ、
中学校の訪問回数の目標を令和8年度より20回→10回に見直します。
同時に、教科指導専門員同士の情報交換の場を設け、
教員へのアドバイスの質を高めます。

③ 小・中で「授業の進め方」を揃えていく

区内の35の小中連携ブロックで、小・中で9年間つながった授業の進め方を共有します。
中学進学時の戸惑いを減らし、一人ひとりの学習状況に合わせた連続した学びを保証します。

中・長期:データを活かして、質の高い公教育へ

第2期教育振興ビジョン・足立区基本計画に基づき

「一人ひとりに合った学び」と
「他者と深める学び」を一体的に推進し、
学習者(児童・生徒)主体の授業への転換を進める。

学びを支える道具としてのICT

ICTは「使うこと」が目的ではなく、考える・伝える・振り返る・他者とつながるといった
学びを支える道具として位置づけます。

データを見ながら授業を改善

学力調査やAI教材に残った子どもの学びの記録(学習ログ)を見ながら、一人ひとりの
つまづき等に合わせて授業を改善していきます。

めざすゴール

家庭の状況や学習環境に左右されにくい、誰もが安心して受けられる質の高い公教育
をめざします。区全体の学力の底上げと、課題のある中学校段階での伸びを目指します。
。

子どもたちに
「できた」「わかった」の喜びを！



Thank you for your attention.

令和8年度区民評価ヒアリング

No.15

「不登校児童・生徒に対する支援事業」

教育指導部

不登校施策推進担当課

こども支援センターげんき

教育相談課

教育指導課



国

不登校児童生徒への支援においては、学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるように支援を行う

○生徒指導提要（文部科学省 令和4年12月）

不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える

○誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）（文部科学省 令和5年3月）

都

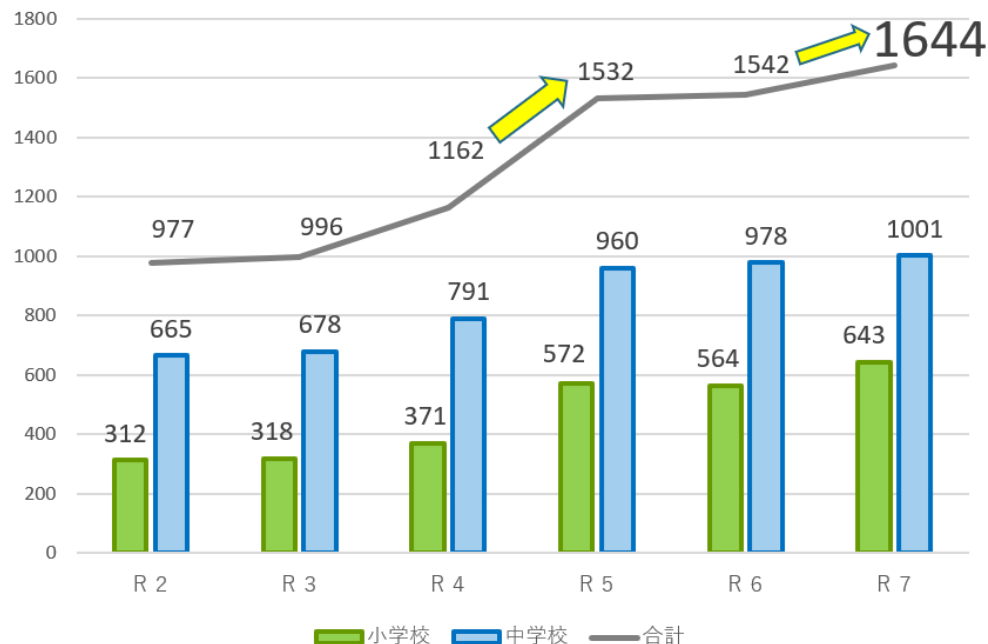
- 1 不登校の未然防止に力を入れていく
- 2 どこにもつながっていない不登校児童・生徒の数を0人にする

足立区の不登校支援 2つの柱

- 1 不登校の未然防止・早期対応
- 2 不登校の児童生徒の多様な学びの保障

現状 足立区の不登校児童・生徒数は増加

不登校児童・生徒数の推移



令和 6 年度は令和 5 年度からほぼ横ばいとなった。

しかし、令和 7 年度の不登校児童・生徒数は 1 6 4 4 人となり、再び大きく増加傾向にある。

令和7年9月に「学校生活に関するアンケート」を実施

子どもたちの「居場所」が夢や希望、友だちや勉強に影響を与え、不登校の未然防止に繋がる可能性が示唆された

【目的】

課題を抱える児童・生徒の状況に応じた支援に加え保護者への支援を一層充実させるため、不登校の実態と要因を捉え、深く分析し支援策を講じる。

【対象者】

全児童・生徒及び保護者

【調査方法等】

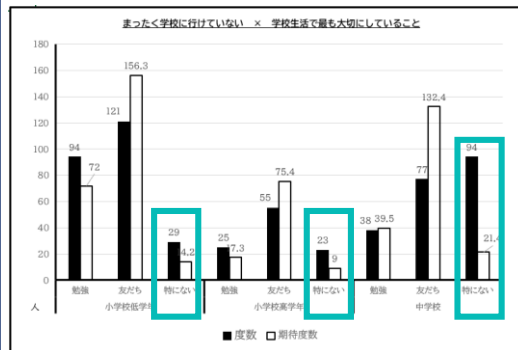
回答率、回答方法

- ① 小学校 86.6%
- ② 中学校 84.2%
- ③ 保護者 42.1%

Web回答で行った。

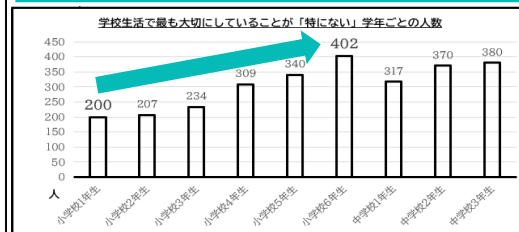
【調査分析の3観点】

- ① 「夢や希望を信じ生き抜く人づくり」を目指すあり方
- ② 「夢や希望（将来の楽しみ）を信じる視点」と「子どもたちのウェルビーイング向上の視点」
- ③ 学校生活で最も大切にしていることが「特にない」に着目



「特にない」子どもの傾向

- ・「まったく学校に行けていない」との関係において、何か特別な関係がある
- ・学年が上がるにつれて増えていく



1 不登校の未然防止・早期対応

2 不登校の児童生徒の多様な学びの保障

重点プロジェクト事業の
最終成果

学校内外のどこにもつながっていない不登校児童・生徒がいなくなる
ことにより、児童・生徒それぞれが個々の状況に応じた教育を受ける

1

現状の把握

～R7アンケート調査から見たこと～

【学校生活で大切にしていること】

- ① 友だち 62.1%
- ② 勉強 20%
- ③ 特にない 7.6%

「友だち」が学校に行きたいと思える
要因に、「特にない」が学校に行きたく
ないと思える要因になっている可能
性が示唆された。

2

達成に向けた方針

～学識経験者によるアンケート分析・提言～

【意識改革】

子どもに関わる大人が提言を学ぶ

【環境改善、体制改善】

- ① ニーズにあった支援環境づくり
- ② 早期対応の仕組みづくり
- ③ 大人から子どもへのアウトリーチ

3

具体的アクション

～ウェルビーイング向上と大人の連携～

【大人の共通認識】

学識経験者による教職員向け研修に加
え、関係機関への研修内容の共有

【子どもの実態に応じた居場所創設】

小学校版SSRの設置

【大人から気づく仕組みづくり】

Chromebookを活用して子どもの「気
持ち」の変容を察知

令和6年度事業へのご提言を踏まえ、令和7年度に以下の取組みを実施

提言 1

人材募集の周知方法や募集要項について改めて見直しを行うこと

提言 2

働く方々の声を聴きながら、足立区の教育の強みにできるよう、本事業はじめ教育において専門的業務を担う職員の雇用形態についても再考していくこと

提言 3

これまでの分析結果の蓄積ならびに今年度実施のアンケート結果などから、本事業の最終目標やそれを適切に評価できる指標の設定について再検討していただきたい。

取組 1 登校サポーターの増加

ホームページやチラシによる応募を強化したことに加え、申込手続きのオンライン化による区外からの希望者の申込、青少年委員への呼びかけ等の成果により、令和7年度の登校サポーターの登録者数は176名（+36名）に増加した。

取組 2 シニアSSWの新設

スクールソーシャルワーカー（SSW）の中堅層の定着やキャリアアップ、人材確保を図るため、令和8年度から「シニアSSW」の職を新設した。

取組 3 新たな成果指標の設定

令和8年度は、「社会的自立」に向けて必要と考えられる「多様な学び」と「学習意欲」に焦点を当て、中学3年生の生徒のうち、進路が決定した生徒の割合を成果指標とした。

1

学校や関係機関と連携した校内委員会での支援検討と実施

欠席が増えてきた児童・生徒について、各小・中学校の「校内委員会」で支援方法を検討し、学校等と連携して支援を実施

活動 1
直接成果 1

スクールカウンセラー



役割

各学校に週2日以上常駐し、児童・生徒や保護者の様々な悩み、心配事についてカウンセリングを実施。

スクールソーシャルワーカー



役割

不登校をはじめ、児童・生徒や保護者の抱える課題について、学校や関係機関と連携して一緒に解決策を考えて支援を実施。



校内委員会

【直接成果-1】

校内委員会において支援方法等を協議した結果、
学習機会が確保された児童・生徒数

R7実績

1,765名 (R6比 + 1,103名)

2

各小中学校に「登校サポーター」を派遣し不登校の
未然防止を支援活動2・3
直接成果2・3

お迎え支援



登校サポーターが児童・生徒宅へ迎えに行き、一緒に学校へ登校することで、登校の定着を図る。

◆R7実績：64名

別室登校支援



登校サポーターが小中学校の別室を利用する児童・生徒の見守りや学習の手助けを行う。

◆R7実績：621名

S S R（スモール・ステップ・ルーム）



中学校では教室にいられない生徒がいつでも利用できるようなS S Rを開設し、指導員が常駐して支援にあたる。

◆R7実績：147名

【直接成果-2、3】

お迎え支援、別室登校支援、SSRの利用者数



R7実績

8 3 2 名（R6比＋300名）

3 学校以外の多様な学びの場・居場所につなぐ①

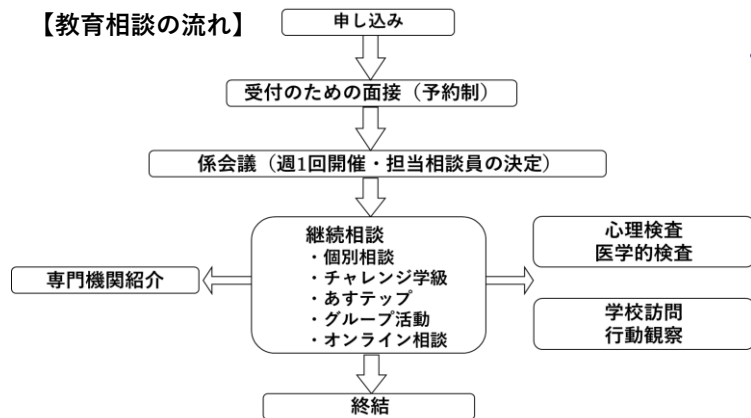
活動4
直接成果4

教育相談事業

教育相談員が子どもや保護者の面接相談を実施。
必要に応じて、在籍する学校との情報共有・連携した支援を行う。

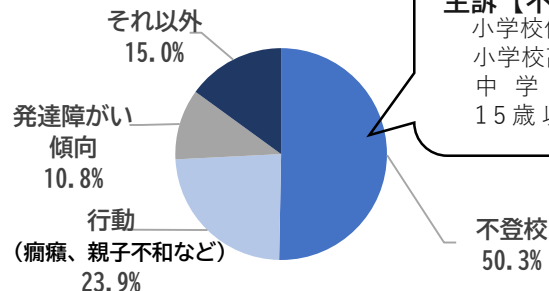
対象	区内に在住・在学している幼児から高校生年齢（18歳）までの児童・生徒及びその保護者
相談内容	不登校、行動面での心配（落ち着かない、自傷行為等）、発達障がい・傾向、学業不振 など
相談の進め方	<u>予約制の面接相談</u> が基本 基本的には1回50分、子どもや保護者のニーズに合わせて <u>継続的な面接</u> を行う

【教育相談の流れ】



R7教育相談件数：1,809件（R6比＋98件）

相談内容別割合（令和7年度）



主訴【不登校】年齢別相談件数

小学校低学年：95件
小学校高学年：211件
中学生：534件
15歳以上：70件

3 学校以外の多様な学びの場・居場所につなぐ②

活動4
直接成果4

あすテッポ



第十中学校（なでしこ）と花保中学校（はなほ）の2か所に設置している教育支援センター。制服の着用や給食など、より学校の環境に近い形で運用。

◆R7実績：18名（定員計40名）

チャレンジ学級



区内3か所に設置している教育支援センター。様々な事情により学校へ登校できていない児童・生徒を対象に、集団の中で学習や活動を行い、学校復帰を支援。

◆R7実績：87名（定員計120名）

居場所を兼ねた学習支援事業



NPO法人に委託して区内4か所で実施。学習にこだわらず、楽しみながら他者と触れ合う機会を提供し、学校復帰へのステップの一助としている。

◆R7実績：55名（定員計70名）

3

学校以外の多様な学びの場・居場所につなぐ③

活動4
直接成果4

外出が困難な場合は 以下の支援につなげている

家庭学習支援事業



主に長期不登校の児童・生徒を対象にアウトリーチ支援として、家庭への講師派遣による個別学習支援を実施。

◆R7実績：77名（定員100名）

東京都バーチャル・ラーニング
・プラットフォーム

東京都が提供する仮想空間を外出困難な児童・生徒がアバターとして利用することで、学習支援や相談対応等を受けることが可能。

◆R7実績：32名（定員40名）

オンライン教育支援センター
“room-K”

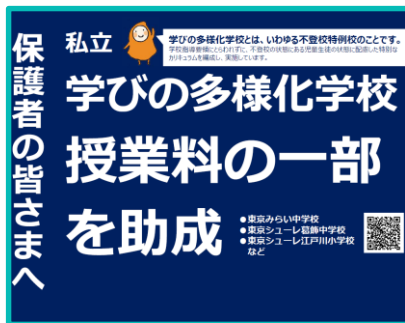
不登校の小中学生に対し、仮想空間（メタバース空間）でオンラインによる質の高い伴走支援と学びの場づくりを実現。

◆R7実績：3名 ※R7で事業終了

その他にこんな取り組みを実施

R6

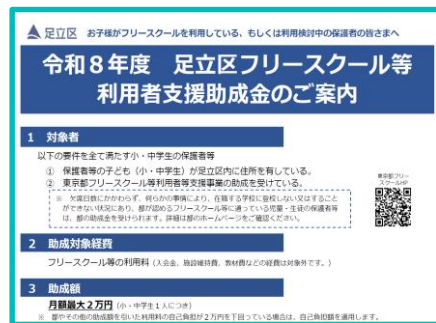
私立学びの多様化学校 授業料助成



令和6年4月、区内に学びの多様化学校（旧不登校特例校）が設立されたのを機に、区内在住の児童・生徒がいる家庭への授業料の一部助成を開始。

R7

足立区フリースクール等 利用者支援助成金【NEW】



フリースクール等に通う児童・生徒の保護者に対し、都の助成金に上乗せする形で、2万円/月の助成制度を開始。

R8

第十一中学校に不登校生徒を対象とした チャレンジクラス「シエスタ」を開設【NEW】



「学校に行きづらい…」 「でも、勉強はどうしよう」 「学校生活も経験してみたい…」 。
そんな思いを持つ子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、ゆとりを持った時間割で、専任教員が対応。少人数でコミュニケーションが取りやすく、自分のペースで学ぶことができるクラス。

より多くの不登校の児童・生徒を支援につなげる必要があります

中間成果 1

登校状況が改善した児童・生徒の割合

	R6	R7
目標	60%	60%
実績	33%	50%
達成率	55%	83%

R6に比べ改善

中間成果 3

不登校の未然防止に効果があった生徒数

	R6	R7
目標	28人	70人
実績	29人	64人
達成率	104%	91%

概ね達成

中間成果 2

学校以外の学習機会が確保されたことにより、不登校の状況が改善した児童・生徒の割合

	R6	R7
目標	60%	60%
実績		42%
達成率		70%

遅れている

最終成果

学校内外のどこにもつながっていない不登校児童・生徒数（低減目標）

	R7
目標	34人
実績	71人
達成率	47.9%

未達

1 不登校施策推進担当課、教育指導課、教育相談課、学校、関係団体との連携

- ✓ アンケート分析の結果から、不登校未然防止は学校教育の基盤に関わる施策であることが示唆された。
- ✓ 学校のみならず、子どもの教育に関わる大人側の意識を変えていく必要がある。

対策 不登校施策推進担当課が中心となって部内定例会や関係団体との連絡会を通じた連携を強化

2 進路/進学支援

- ✓ 子どもの状況に応じ進路/進学に向けたステップアップを想像できるロードマップが必要である。

対策 事業の一体化も含めた検討を進めるとともに、自身の将来を想像できるようなロードマップの作成
校内委員会や不登校支援連絡会による、子どもを支える大人の連携を強化

3 小学校における校内の居場所創設

- ✓ 低学年の不登校が増加傾向の一方で、登校できるようになるのも高学年に比べて低学年が多い。
- ✓ 低学年のうちに学校に復帰できる体制/校内の居場所づくりが必要である。

対策 子どもの実態に応じた校内の居場所創設（小学校版SSR）

短期



人間関係の構築を中心に据えたクラスづくり

⇒ 居心地のよいクラス、学校へ変えていく



子どものSOSを早期にキャッチできる仕組みづくり

⇒ Chromebookを活用して教職員からアプローチ



オンラインを活用した学びの環境づくり

⇒ GoogleMeetで授業を受けられる環境を当たり前に

中・長期



未然防止の強化

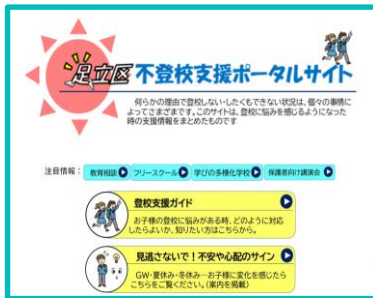
- ・SSRの拡大 令和8年度現在25校 → 令和9年度に全中学校（35校）の設置を目標
- ・小学校における子どもの実態に応じた校内の居場所（小学校版SSR）を全校（67校）配置
- ・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活動強化：計画的な増員、人材育成
- ・学識経験者による意識改革研修の継続実施



学びたいときに学べる環境づくりのさらなる推進

子どものウェルビーイング向上に繋がる学校等の居場所づくり

支援メニューをひとまとめにして発信中！



足立区の不登校支援について案内するサイトを区ホームページ内に開設。区の事業や関係機関等を紹介。

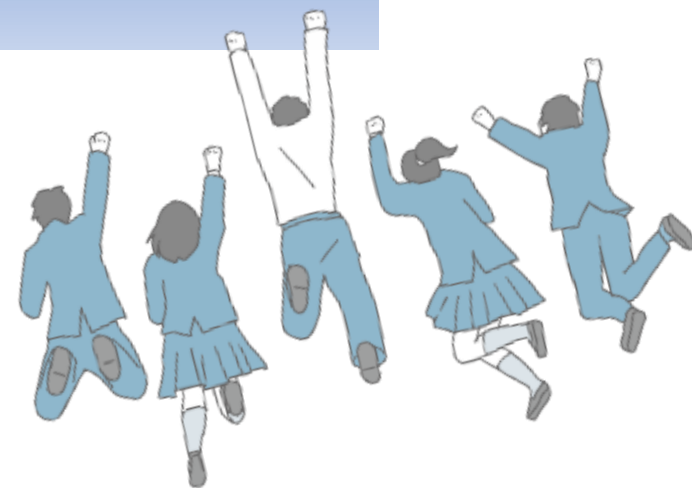
ご清聴ありがとうございました



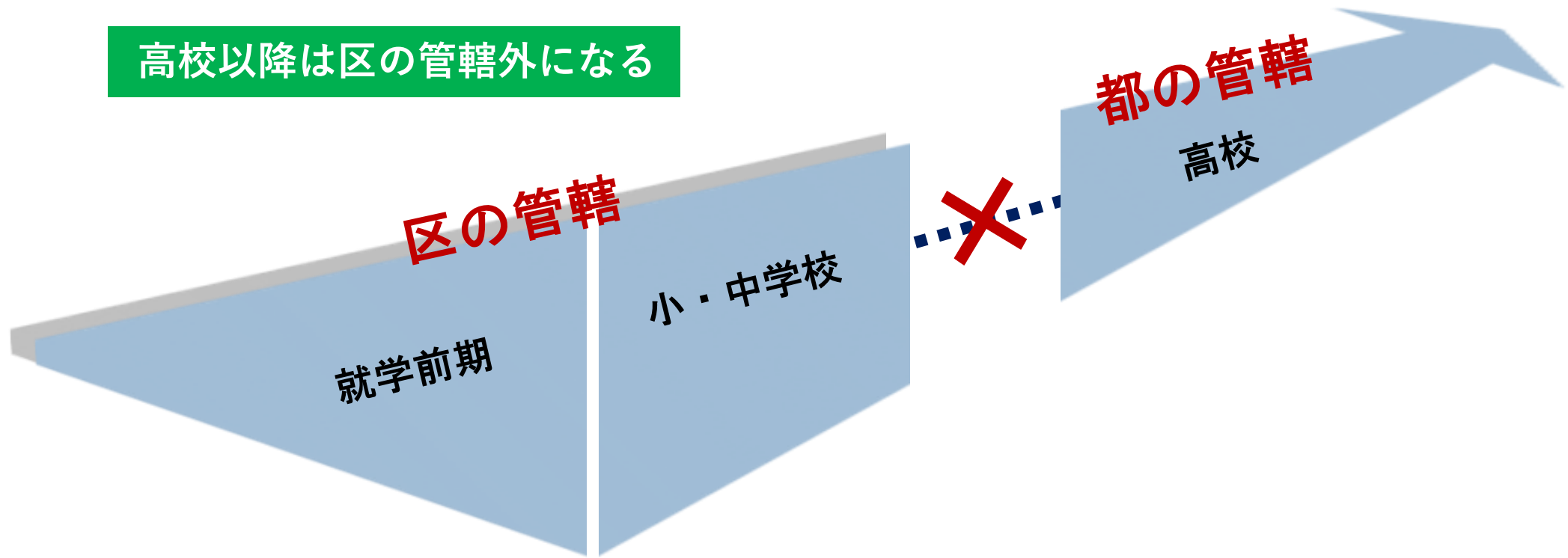
≡ 若者の自立を全力で応援する。

No.16 若年者全力応援事業

あだち未来創造室 子どもの貧困対策・若年者支援課
学校運営部 学務課
福祉部 生活支援推進課



途切れていた区の若年者支援



中学生までで区の支援が途切れてしまう

子ども・若者

待ったなしの少子化対策～若者の自立促進を目指して



※ 表は、「子ども」「若者」に関する主な事業を抜粋したイメージです

足立区が抱える若年者の課題

令和5年3月

23区全体
73.3%

23区の中では突出

高校中途退学者数

193人 平成29年度

区内高校の大学等進学率

52.3% 令和5年3月

1

高校中退や大学への進学断念により経済的・社会的自立が困難に

2

低所得により貧困の連鎖を断ち切ることができない

これらを放置すると
結婚・出産を
あきらめてしまう
ことにもつながる

※中退者数は平成29年度以降非公開情報となった

高校生・大学生であっても

あだちの子どもは足立区が支援する

令和3年4月 若年者支援の専管組織

「子どもの貧困対策・若年者支援課」 設立



若年者支援協議会を設置

「中途退学予防の強化」「中途退学後の支援」を目的に、
高校やYSW[※]、NPO団体、区の関係機関などが連携し、
一人ひとりの若者の状況に応じた支援を検討する協議会

47回

高校・NPO・YSW
などと開催した
分科会の回数

令和7年度実績



学校の授業についていけない…
中退者への支援がない…

補習・学び直しの支援が必要

※YSW（ユースソーシャルワーカー）とは

若者を取り巻く生活、家族等の様々な
問題の解決と軽減をしつつ、若者が自
立した社会人として成長していくため
の支援（福祉と教育を統合させた若者
への支援）を行っている

部活動の道具を買う費用や遠征費が出せず
クラブ活動が贅沢になっている子どもがいる

「やりたい」をサポートすることが必要

無気力が原因で
夏休み明けの中退者が多い

メンタル面の悩みの相談場所が必要



授業におくれがちな**高校生の補習**や高卒資格を
取得したい**高校中退者の学び直し**を行う学習支援

開館時間 毎週月曜日 13時～20時

会場 梅島校（NPO法人カタリバ）
綾瀬校（NPO法人キッズドア）

定員 梅島校30名、綾瀬校20名



特色POINT

① 個別指導を受けることができる

② 食事の提供があります

③ 自由に来て、読書や自習をして過ごせる

さらに

進学希望者には大学に関する情報提供や奨学金制度の紹介
行政手続きが必要な利用者には同行支援の実施 etc

ひとり一人の状況に応じて、
自立に向けた多様な進路選択を後押し

登録人数

48名

33名が進路実現

77%（不明5名を除く43名で算出）

利用者の**声**

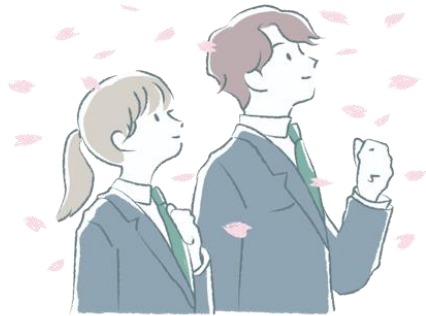
落ち着けて、家でも学校でもない第三の居場所となっている
勉強ができてコミュニティを広げることができる場所

昨年度の反映結果
を受けて

谷在家校
を新たに開設

梅島校も
5名増員！

高校生世代応援支援金



夢や目標があるが、家庭の事情などにより、あきらめざるをえない高校生世代を対象に、部活動・習い事・資格取得などへのチャレンジに**5万円を支給**

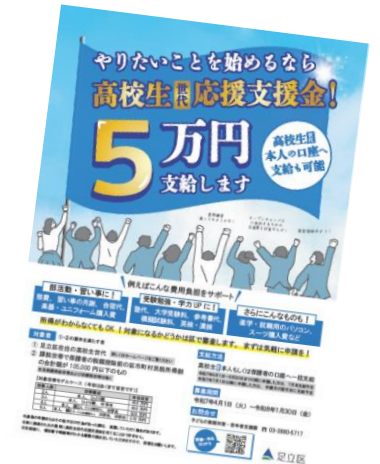
対象者

課税世帯で保護者の税額控除前の区市町村民税所得割の合計額が105,000円以下のもの

※ 生活保護受給世帯および非課税世帯は除く



令和5年度の実績（支給人数54名）を踏まえ、令和6年度は制度設計を見直すため事業を休止。「アダチ若者会議」での意見を参考に、対象者や対象経費を拡充し、令和7年度に事業を再開。



部活動・習い事に！

部費、習い事の月謝、合宿代、楽器・ユニフォーム購入費

受験勉強・学力UPに！

塾代、大学受験料、参考書代、模擬試験料、英検・漢検

さらにこんなものも！

進学・就職用のパソコン、スーツ購入費など

支給人数

518名

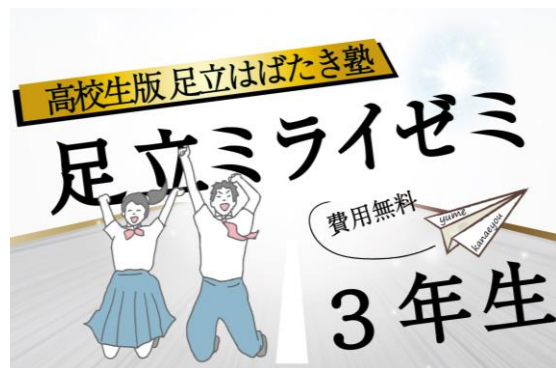
申請人数
1,044名

98%

望んでいた体験・経験
ができたと回答

受給者の声

- ・ 部活動の道具が購入でき、英検の受験も積極的に臨むことができた
- ・ 多くの高校生が自分のやりたい夢などの実現に一步近づくと思う
- ・ 将来の自分の可能性を広げることができました



成績上位であるものの家庭の事情などにより塾などに行けない高校生を対象に、3年間の受験勉強期間を通じて、**難関大学合格**を目指す無料学習塾

受講人数 3学年合わせて90人

会場 生涯学習センター（1年生・2年生）
こども支援センターげんき（3年生）



特色POINT

① 成績上位層の「突き抜け」支援

② AI学習ツールを用いた個別学習と塾講師の個別指導のハイブリッド型

難関大学進学者数

11名 (37%)



国公立大学 7名 私立大学 13名
難関私立大学 4名 その他 6名

※塾生32名のうち進路不明1名、高等専門学校進級1名を除く

満足度

90%

進学後も、目標に向けて頑張っていきたいと思うと **97**%が回答

卒業生の声

- 勉強面だけでなく受験期の心持や進路などの相談にも乗っていただけて、生徒へのサポートがとても手厚く素晴らしい塾でした。
- 金銭的には一般の塾に通うことは厳しい状況にあったため、足立ミライゼミの存在はとても大きく、助けられました。



大学等の入学料・授業料などを全額給付

足立区給付型奨学金



応募人数

206名 ▶ 228名

R 6 年度

R 7 年度

採用者
45人

留学や資格取得、弁護士、会計士、
海外就職など、目標や夢に向かって
頑張っています！！

対面で事業を積極PR

① 奨学金・教育ローン説明会
(庁舎ホール)

2回開催
225人

② 奨学金・教育ローン個別相談会
(各足立成和信用金庫地域応援相談プラザ)

6回開催

PC代、教科書代、スーツ代など

大学生等の修学・就職支援



支給人数

88名

受給者の声

・ 53%が「経済的な負担が軽減して助かった」と回答

一方「1年次限定ではなく全学年を通じた支援を望む」
「交通費に関して想像以上に負担が大きい」といった声も！

令和8年度

「1年次限定」の教材費等購入支援を

全学年申請可能に！

+

所得要件を緩和！

+

交通費も検討中！



若者のメンタル面や生活全般の悩みなどの相談を
精神科医・精神保健福祉士などの専門スタッフが
窓口で相談に乗り、必要な支援につなげる

対象者 概ね15歳～25歳前後の区内在住・在学・在勤者

場所 千住2-29-2（北千住駅から徒歩約3分）



特色POINT

① カフェのような落ち着いた雰囲気

② オンラインや訪問相談も実施

③ 医療機関などへの同行支援も実施

相談人数

374名

R 6 年度



370名

R 7 年度

アウトリーチによる手厚い支援も！

訪問相談（自宅・他施設）129件【R6年度99件】

出張相談（学校）1件【R6年度10件】

これらの支援も実施！

コミュニケーションが苦手の方に向けた

NPOでのボランティア体験



子ども食堂や居場所などで実施

- ・集団を好まない
- ・コミュニケーションが苦手
- ・信頼関係の構築に時間を要する
- ・面接に落ちてしまう など

個別就労支援プログラム

194 名が医療機関・
NPO・就労先へつなぐ

利用者アンケート

① 相談の満足度 98.3%

② 相談して解決に向かった人の割合 **97%**

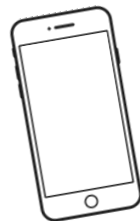
若年者支援事業の情報発信

【活動-1、活動-2】

SNSを中心に、あだち広報、チラシなど

情報発信回数

345 回



訪問、講演会などを通じて周知

実施回数

31 回

SODAの
ポスターを
北千住駅
で掲出する
ことがきました

POINT 1

給付型奨学金や大学生等の修学・就職支援の周知活動を、区内だけでなく区外の都立高校へも広げ、情報発信を行った。

令和8年度

高校生世代応援支援金についても区外への情報発信を広げていく

POINT 2

高校生世代応援支援金の申請者約1,000人の交付・不交付決定通知書の郵送に合わせて他所管を含めた若年者支援事業のチラシを同封し、若者に届く情報発信を試験実施した。

令和8年度

本格実装し、LINE登録案内のチラシなどを同封する予定

さらなる推進・拡充を目指して



高校生世代の
居場所型学習支援
のさらなる
拠点の拡充



若者の居場所づくりの推進



地域学習センター
の活用促進



若者の意見表明と区政参画を推進し
若者の社会参画の促進を目指す



≡ 若者の自立を全力で応援する。

END



HPは
コチラ

